



testo Saveris PROF を用いた計測データモニタリング

スタートアップのためのインストラクション





1 システム要件

基本ソフト(OS)

ソフトウェアを作動させるには次の基本ソフトが必要です。

- ・ Windows® XP SP3 またはそれ以上
- ・ Windows® Vista Home プレミアム(32ビット版)またはそれ以上
(Business を推奨)
- ・ Windows® Vista Ultimate
- ・ Windows® 7

コンピュータ

本ソフトウェアで快適に作業を進めるには、次の要件が満たされている必要があります:

- ・ 800MHz 以上の Pentium プロセッサ
- ・ 512MB 以上の RAM、推奨: 1 GB
- ・ 4.5GB の未使用領域を持つハードドライブ(データベース容量、最大時)
- ・ CD-ROM または DVD-ROM ドライブ
- ・ USB 2.0 インターフェース

i 円滑な自動操作を確実なものにするには、コンピュータが継続動作するようにコンピュータのプロセッサ、ハードディスク、および USB インターフェースを構成しなければなりません。必要に応じ、コンピュータの省電力機能をチェックして無効にしてください。

- ・ Microsoft® Internet Explorer 6.0 SP1 またはそれ以上
- ・ Microsoft® Windows Installer 3.1 またはそれ以上
- ・ MDAC 2.8 SP1 またはそれ以上
- ・ .NET Framework 2.0 またはそれ以上

i Windows® Installer 3.1、MDAC 2.8 SP1、.NET Framework 2.0 がインストールされていない場合、Saveris ソフトウェアの CD からインストールすることができます。

- ・ Microsoft® Outlook

データベース

- ・ SQL サーバ 2005 Express SP2 対応
- ・ 各 32bit SQL サーバ 2005/2008 または、Terminal Server 対応

i Lotus Notes を使用する場合には、Exchange Server 用のアダプタをセットアップしなければなりません。必要であれば、システム管理者に相談してください。

- ・ Microsoft SQL Server 2005 V9.0 Express Edition

i Testo Saveris は SQL データベース(Microsoft SQL Server 2005 V9.0 Express Edition)で動作します。インストールするコンピュータに V9 か V10 の SQL Server が既に存在するなら、Testo Saveris 用に 2 番目のインスタンスを作成してください。

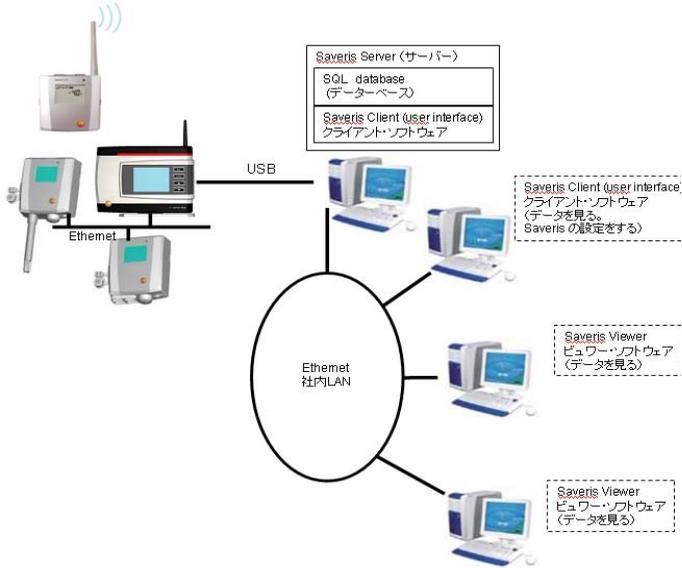
i マイクロソフト SQL データベースの Saveris インスタンスへのアクセスは、ファイアウォールを通して行なわれます。そのためには、ポートの定義、ファイアウォールのオープンが必要です。マイクロソフト社の安全に関する指示にご注意ください。

i ウィルス対策ソフトを使用していると、システム構成により異なりますが、システムのパフォーマンスが低下することがあります。

i 仮想化 OS 上で本ソフトウェアをインストールするときは、利用可能なシステム・リソースを必ずチェックして、必要に応じて改善、対策を実施してください。

1.1. ネットワーク環境

Saveris PROF ソフトウェアは、一台のコンピュータにインストールして運用することももちろん、ネットワーク環境下ではクライアント-サーバー方式での運用も可能です。



Saveris サーバー (Saveris Base と接続するコンピュータ) は、Saveris システムの設定やデータ表示を行なう SaverisClient ソフトウェアと測定データを蓄積するデータベースで構成されます。Saveris Client ソフトウェアまたは Saveris Viewer ソフトウェアをインストールしたクライアントコンピュータでは、Saveris サーバー内のデータを自由に取り出して表示したり、サーバーを通して Saveris システムの設定を行なえます。

2 ファースト・ステップ

i この取扱説明書は testo Saveris 計測システムのスタートアップに必要な手順だけをまとめたものです。

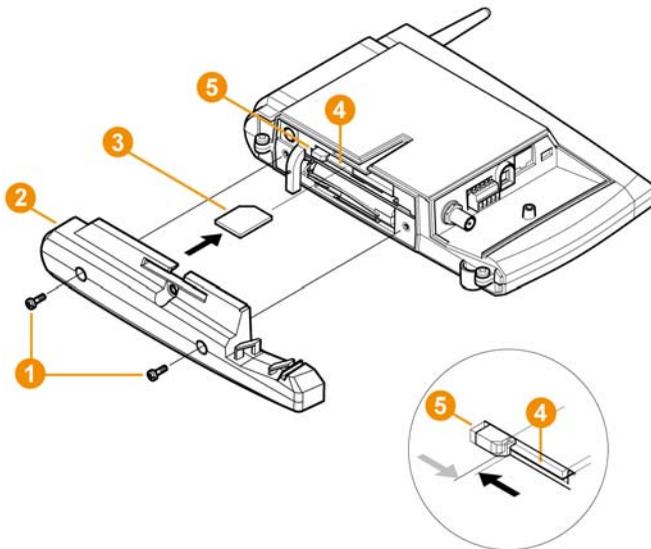
別のCDに収められたPDFファイル形式の総合取扱説明書には、スタートアップのための情報だけでなく、安全のための取り扱い説明や、その他 Saveris ソフトウェアを用いて行う作業についての情報や説明が含まれています。

2.1. SIM カードの挿入(オプション)

GSM モジュールが組み込まれた Saveris Base(注: 日本では使用できません)の場合、使用前に SIM カードを挿入します。

i SMS(ショートメッセージサービス)で警告メッセージを送るために必要な SIM カードは、セットに含まれておりません。別途 携帯電話プロバイダから購入してください。

いわゆるプリペイド式の SIM カードは クレジットを使い尽すと SMS で警告メッセージを送ることができなくなりますので、携帯電話契約をした SIM カードをご利用になることをお勧めします。

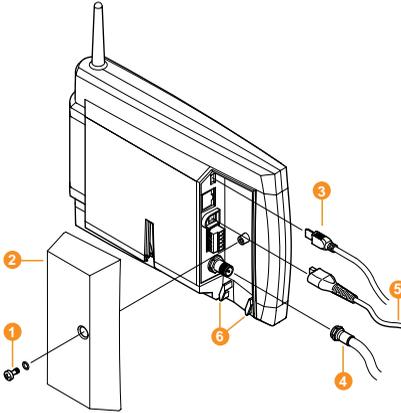


1. Saveris Base のスイッチを切ります (Info : ページを選択して、[ESC]を2度押します)。
2. ネジ①を緩めて、Saveris Base からプレート②を外して下さい。
3. SIM カード③を図のようにカードスロット④に差し込んでください。

i SIM カード③を差し込むとキャッチ部分⑤が脇に押されます。カードが完全に挿入されると、スプリングによってキャッチ部分が押し戻されて SIM カードがカードスロットに固定されます。

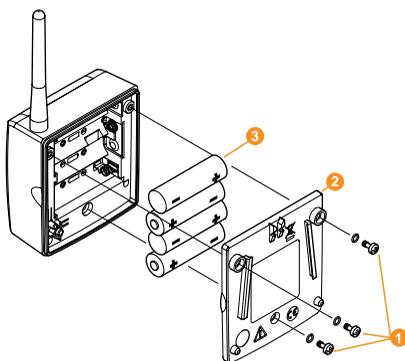
4. プレート②を Saveris Base にネジ①で留めてください。

2.2. Saveris Base のケーブル配線



1. ネジ①を緩めて、Saveris Base からカバー②を取り外して下さい。
2. USBケーブル③を Saveris Base に接続してください。
 - > Saveris Base に GSM モジュールが付いている場合には、アンテナケーブル④をねじ込みながら接続してください。
3. ACアダプタのDCケーブル⑤を Saveris Base に接続してください。
4. ケーブルにかかる張力を緩和するため、ケーブルタイを使用してアイレット⑥にケーブルを固定してください。
5. カバー②を Saveris Base にネジで留めてください。
6. ACアダプタの電源プラグをコンセントにつないでください。
 - 電源を投入すると言語選択画面が表示されます。そこで言語を選択すると操作準備が始まり、約 30 秒後に操作可能になります。
Saveris Base のディスプレイに、無線プローブやルーターと接続するための簡単な説明が現れます。

2.3. バッテリーをプローブに挿入する



1. プローブ背面のネジ①を緩めてください。
2. プローブのケースカバー②を外してください。
3. バッテリー③を挿入してください。

i バッテリー収納部に正しい取付方向と極性が図解されています。

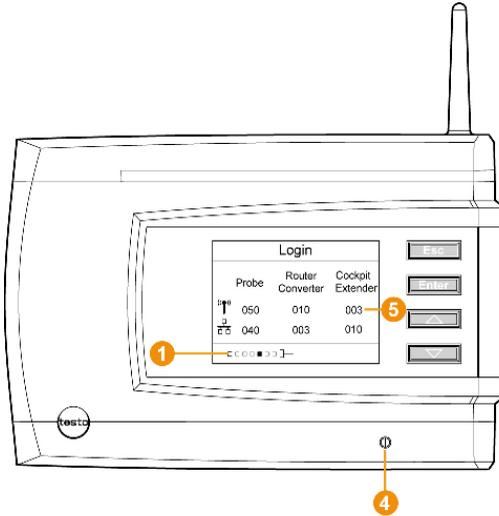
4. プローブ本体にケースカバーを置いてください。
5. ケースカバーをネジでプローブ本体に留めてください。

i プローブ本体にはカバーを通して作動するコントロールスイッチが付いています。これを作動させるには、プローブ本体との間に隙間が出来ないようにカバーをネジで留めなければなりません。

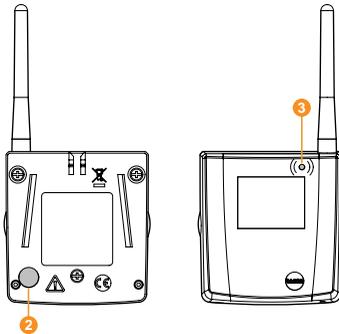
隙間が出来ないようにカバーをネジで留めないと、プローブは操作することができません。

2.4. 無線プローブの接続

- i** Saveris Base に直接接続可能な無線プローブは、15 台までです。ルーターまたはコンバーターを利用して、より多くの無線プローブを登録する場合には、別の CD に収められた総合取扱説明書を参照してください。



- Saveris Base で、[▼]キーを用いて **Info:システム**メニューを表示させます。ログイン機能呼び出すために[Enter]キーを押してください。
- ディスプレイのステータスバー①に、Saveris Base がプローブ探知モードであることを示すアニメーションが表れます。



2. プローブのLED③がオレンジ色に点滅し始めるまで、プローブの後ろ側にある CONNECT ボタン②を押し続けてください。
- プローブが Saveris Base によって探知されると、プローブのLED③が短時間緑色に変わります。

同時に Saveris Base のLED④が短時間緑色に点滅し、Base のディスプレイに「続けて、別の無線プローブまたはルーターの登録を行ないますか？」のメッセージが表示されます。

i 同時に複数のプローブを Saveris Base に登録することはできません。複数のプローブを登録する場合は、1 台ずつ登録を行なってください。

3. Saveris Base で、次のキーを押してください：
 - ・ それ以上登録するコンポーネントがないとき; **[Esc]** キー
 - コンピュータのスタートアップアシスタントで行なう作業に関する注記が約 10 秒間ディスプレイに表示されます。
その後、Saveris Base が **Info:システム** メニューに変わり、そこに接続されているコンポーネントの数⑤が表示されます。
 - ・ さらにコンポーネントを登録するとき; **[Enter]** キー (ステップ2を参照)
4. 無線リンクをチェックするために、測定を行なう場所にプローブを持って行ってください。
5. プローブの後ろ側にある CONNECT ボタン②を短時間押してください。
プローブのLED③が
 - ・ 緑色に点滅するならば、無線リンクが存在します。
 - ・ 赤色に点滅するならば、無線リンクは存在しません。

i プローブと Saveris Base の間に無線リンクが存在しないときには、ルーターを組み込んでください。; **Saveris ルーターの組み込み(オプション)** 11ページを参照。

ルーターへのプローブの割当ては、ハードウェアのスタートアップ中に行ないます。; **ハードウェアのスタートアップ** 20ページを参照。

2.4.1. Saveris ルーターの組み込み(オプション)

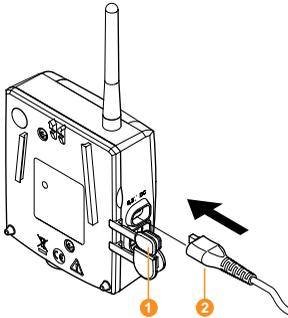
構造的な条件が悪い場所で無線通信を最適化したり、通信経路を延長したりするために Saveris のルーターを使用できます。ルーターは複数の無線プロブの信号を受信して、それらの信号を Saveris Base に転送します。

i ルーター1台当たり最大5台までの無線プロブの計測データを Saveris Base に送ることができます。

i ルーターの位置決めをするときには次の点に注意してください:

- ・ ルーターに複数のプロブを組み込むときには、最も弱い無線リンクをもったプロブが、ルーターの位置を決定します。このプロブが、望ましい無線リンクを得られるような位置にルーターを設置してください。
- ・ プロブとルーターは、アンテナが上方に向かって揃うように取り付けてください。
- ・ プロブとルーター、ルーターと Saveris Base の間の無線リンクが、構造的な条件(壁、棚等)から大きな影響を受けないように取り付けてください。できるだけ多くの無線リンクをもった「ビジュアルコンタクト」ができるようにルーターとプロブを取り付けてください。

2.4.1.1. ルーターを電源に接続

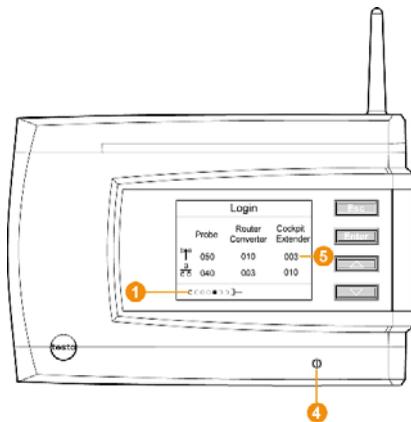


1. カバー①を開けてください。
2. ACアダプタのDCケーブル②を差し込んでください。
3. ACアダプタの電源プラグをコンセントに差し込んでください。

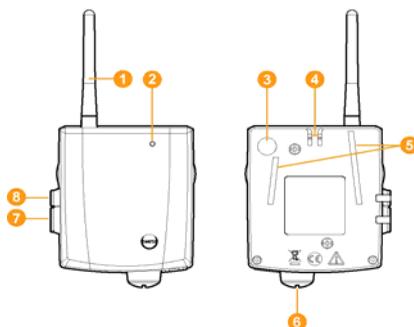
2.4.1.2. ルーターを Saveris Base に接続する



Saveris Base には最大 30 台までのルーターを接続することができます。Saveris Base は最大 15 台のルーターと同時通信が可能です。



1. Saveris Base で、[▼] ボタンを用いて **Info:システム**メニューに変えてください。
2. ログイン機能呼び出すために[Enter]キーを押してください。
 - ディスプレイのステータスバー①に、Saveris Base がプローブ探知モードであることが表示されます。



3. ルーターのLED③がオレンジ色に点滅し始めるまで、ルーターの後ろ側にある CONNECT ボタン②を押し続けてください。
 - ルーターからの電波が Saveris Base によって探知されると、ルーターの LED ③ が短時間緑色に変わります。

Saveris Base のLED④が短時間緑色に点滅し、ディスプレイに「続けて、別の無線プロブまたはルーターの登録を行ないますか？」のメッセージが表示されます。

i 同時に複数のルーターを Saveris Base に登録することはできません。複数のルーターを登録する場合は、1 台ずつ登録を行なってください。

4. Saveris Base で、次のキーを押してください:

- ・ それ以上登録するコンポーネントがないとき; **[Esc]** キー
 - コンピュータのスタートアップアシスタントで行なう作業に関する注記が約 10 秒間ディスプレイに表示されます。
その後、Saveris Base が **Info:システム** メニューに変わり、そこに接続されているコンポーネントの数⑤が表示されます。
- ・ さらにコンポーネントを登録するとき; **[Enter]** キー(ステップ2を参照)

2.5. Saveris ソフトウェアのインストール

＞ インストールの前に: 開いているプログラムを全て閉じ、**Autostart** プログラムの入力を全てオフにして、PC を再起動して下さい。

i プログラム及びドライバを Windows® 2000 SP4、XP、及び Vista にインストールするには、管理者(Administrator)の権限が必要です。

別のユーザーとして実行... ではなく直接、管理者(Administrator)としてログインして下さい。

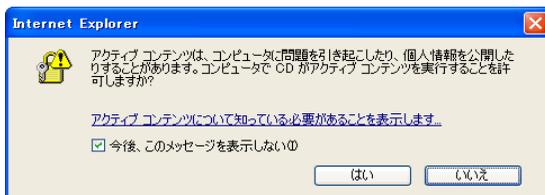
i Saveris プロフェッショナルサーバーを Windows® Vista を基本ソフトとするコンピュータにインストールしている場合には、Windows® Firewall の設定で**接続を許可する**に変更して下さい。デフォルトでは**接続をブロックする**になっています。

i ネットワークに複数の Saveris Client のコンピュータが存在する場合、Saveris Client の操作を行っている複数のコンピュータから同時に Saveris システムの設定変更が行われないように注意して下さい。

1. Saveris ソフトウェアの入った CD を CD-ROM ドライブに入れてください。
インストールプログラムが自動的にスタートしない場合には、Windows®Explorer を開いて CD に入った **index.html** ファイルをスタートさせて下さい。
– インターネット・ブラウザが起動し、表示用言語の選択ページが表示されます。



2. 表示用言語として **日本語** (一番下) を選択します。
– アクティブコンテンツに関する警告メッセージが表示されます。
[[はい]] を選択します。



- インストール種類の選択ページが表示されます。
ここで、コンピュータを Saveris サーバー (またはスタンドアローン) にするか、Saveris クライアント (またはビューワ) にするかを選択します。



3. **1) Saveris サーバーとして使用するコンピューターに Saveris ソフトウェアをインストールする** を選択します。

- Saveris サーバー(またはスタンドアロン)用のインストール手順のページが表示されます。

Saveris	
5	Saverisサーバー(Saverisクライアントとデータベース)用のインストールプログラムは、このページにあります。
	推奨手順
1	Saverisサーバーのインストールに必要な、各種ソフトウェアコンポーネントをインストールします。 このコンポーネントは、Microsoft Data Access Components (MDAC) と Microsoft SQL Server が含まれます。
2	Saverisサーバー(Saverisクライアントソフトウェアとデータベース)をインストールします。(インストールには数分かかります)
3	電子メールでレポートやアラームを送る場合は、MAPIメールまたはSMTPメールをインストールします。
	MAPIメールのインストール(インストール/利用に必要な要件)
	<ul style="list-style-type: none"> Microsoft Exchange Server が利用可能なこと Exchange Serverは Saveris サーバーと同じドメイン内にあること。 Exchange アカウントが Exchange Server上に作成されていること Exchangeアカウント用の接続データが、このコンピュータにセットアップされていること。通常これは、このコンピュータで一度Outlookを実行することで設定されます。
	SMTPメールのインストール(インストール/利用に必要な要件)
	<ul style="list-style-type: none"> SMTPサーバーが利用可能なこと メールアドレスがSMTPサーバーに設定されていること。 メールアドレスの接続データがコンピュータに設定されていること。通常、メールアドレス情報はSMTPサーバーのプロバイダが発行する書類で確認できます。
	イーサネットプロトコルコンバータを使用する場合:
4	IPアドレスの設定ツール(Testo Saveris Ethernet device startup)をインストールします。
	Saveris BaseのIPアドレス情報、イーサネットプロトコルコンバータに設定するためのツールです。

4. **操作手順(1)のクリック>**をクリックして、Saveris Professional Server のための必須条件であるコンポーネントをインストールします。
インストールウィザードの指示に従ってください。



インストールの過程で、コンピュータ上に Microsoft SQL Server 2005 が存在しない場合は、フリーライセンスのデータベースシステムである Microsoft SQL Server 2005 Express がインストールされます。

SQL データベースはいわゆる "sa password" によって保護されています。これはデータベース管理者のためのパスワードで、データベースに意図せざる変更が行われるのを防ぎます。

V9 か V10 の SQL Server 2005 を使用するソフトウェアがコンピュータに存在し、かつそのソフトウェアのインストール時にパスワードが設定されていると、Saveris ソフトウェアをインストールするために、この "sa password" が必要になります。同時に、Testo Saveris 用に 2 番目のインスタンスを作成してください。

5. **操作手順(2)のクリック>**をクリックして、Saveris ソフトウェア(Saveris システムの操作や設定、データ表示を行うソフトウェア)をインストールします。
インストールウィザードの指示に従ってください。

6. Saveris システムが発するアラームや自動作成したレポートを電子メールで送信するには、**操作手順(3)**で MAPI メールまたは SMTP メールをインストールする必要があります。
MAPI メールをインストールするには、**MAPI メールのインストール** 横の **クリック**>をクリックします。インストール手順の詳細に関しては、**2.5.1 MAPI メールのインストール**を参照ください。
SMTP メールをインストールするには、**SMTP メールのインストール** 横の **クリック**>をクリックします。インストール手順の詳細に関しては、**2.5.2 SMTP メールのインストール**を参照ください。
7. イーサネット・プロブやコンバーターを使用する場合は、それらにイーサネット関連の設定を行なうためのソフトウェアが必要です。
操作手順(4)のクリック>をクリックして、**testo Saveris Ethernet device startup** をインストールします。
インストール・ウィザードの指示に従ってください。

2.5.1. MAPI メールのインストール



MAPI メールのインストールは、システム管理者によってのみ行われるべきです。

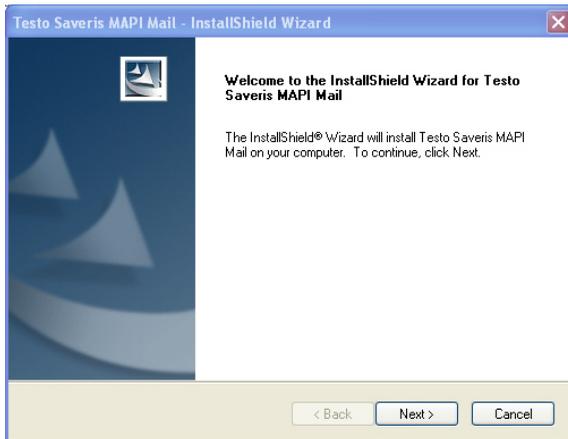
MAPI メールのインストールのためには、以下の前提条件が満たされていなければなりません:

- ・ Saveris MAPI メールのために PC 上で MS Outlook が利用可能であるかインストールされていること。
- ・ Microsoft Exchange Server が利用可能であるか、インストールされていること。
- ・ MAPI メールに使用するユーザアカウントのためのメール・アカウントが Microsoft Exchange Server に設定されていること。
- ・ Microsoft Exchange Server のサーバー名を知っていること。
- ・ MAPI メールは、Saveris サーバーである PC にインストールしなければなりません。以下の条件はこの PC に適用されます:
 - Microsoft Exchange Server にアクセス可能になっていること。
 - Microsoft Exchange Server は、Saveris サーバと同じドメインに位置していること。
 - Exchange アカウントのための接続データが PC に設定されていること。一般に、これは、その PC(コンピュータ)で MS Outlook を一度実行することによって、達成されます。

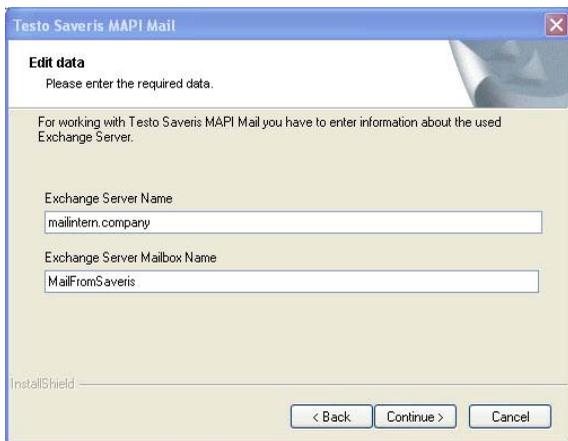


Lotus Notes を使用するには、Exchange Server 用のアダプタをセットアップしなければなりません。セットアップと設定は、お客様の IT 管理責任者が行ってください。

1. **操作手順(3)の MAPI メールのインストール** 横の **クリック>**をクリックします。
 - インストールウィザードが立ち上がります。



2. **[Next]** をクリックします。

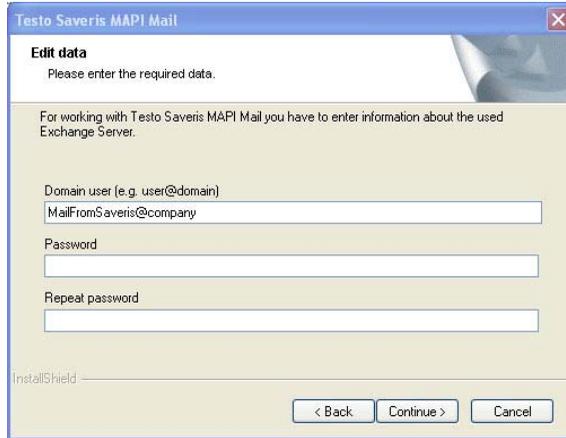


3. **Exchange Server Name** に Microsoft Exchange Server のサーバー名を入れてください。
4. **Exchange Server Mailbox Name** に Microsoft Exchange Server 上の電子メールのメールボックス名を入れてください。



通常、メールメールボックスの名前はユーザー名と同じです。

5. **[Continue]** をクリックします。



6. **Domain user** に Microsoft Exchange Server 上の電子メールのメールボックス・ユーザー名を入れてください。



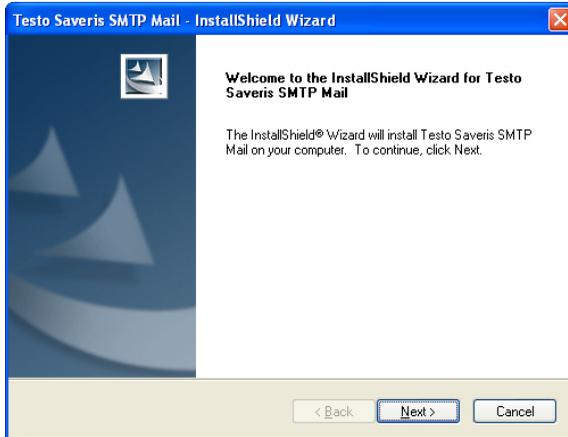
通常、ユーザー名は e メールメールボックスの名前と同じです。

7. **Password** 欄にパスワードを入力します。
8. **Repeat password** 欄にパスワードをもう一度入力します。
9. **[Continue]** をクリックします。
 - MAPI メールがインストールされます。

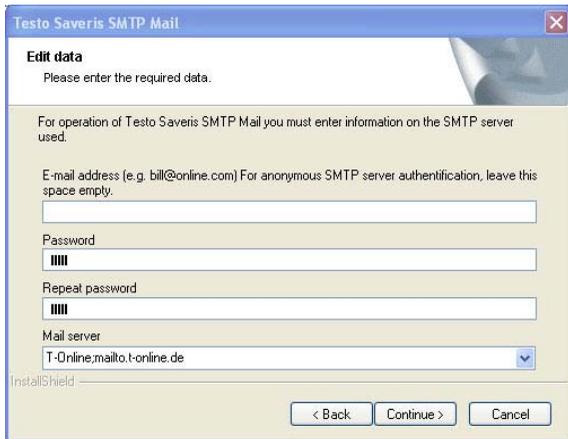
2.5.2. SMTP メールのインストール

SMTP メールのインストールのためには、以下の前提条件が満たされていなければなりません:

- ・ SMTP サーバーの名前がわかっていること。
 - ・ インターネット・プロバイダーにより、1 つのメール・アカウントが利用可能になっており、またセットアップされていること。
 - ・ プロバイダーデータ(E メールアドレスとメールボックス)がわかっていること。
1. **操作手順(3)の SMTP メールのインストール** 横の **クリック>** をクリックします。
 - インストールウィザードが立ち上がります。



2. **[Next]**をクリックします。



認証がアプリケーションに必要であるなら、単にアドレスとパスワードを入力してください。

3. **Password** 欄にパスワードを入力します。
 4. **Repeat password** 欄にパスワードをもう一度入力します。
 5. **Mail server** 欄でメールサーバーを選択するか、サーバー名を入力します。
 6. **[Continue]** をクリックします。
- SMTP メールがインストールされます。

2.6. ハードウェアのスタートアップ

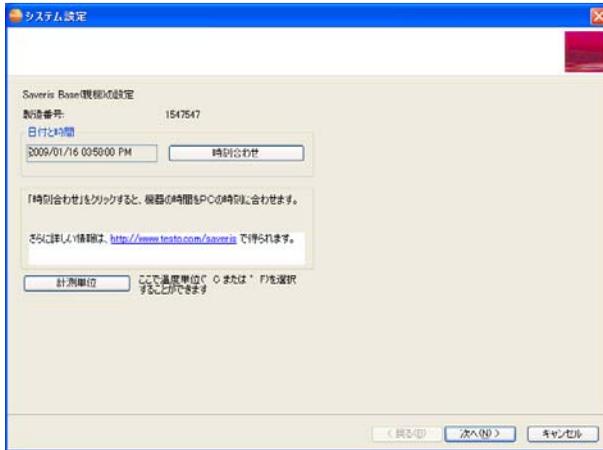
ハードウェアをスタートアップするには次の条件が満たされていなければなりません:

- ・ Saveris Base の運転準備が整っている (**Saveris Base のケーブル配線 7ページを参照**)。
- ・ 全てのプローブが Saveris のベースに登録されている (**無線プローブの接続 9ページを参照**)。
- ・ Saveris ソフトウェアがコンピュータにインストールされている (**Saverisソフトウェアのインストール 13 ページを参照**)。

1. Saveris Base を USB ケーブルでコンピュータに接続してください。
 - スタートアップアシスタントがスタートします。



2. **[先に進む >]**をクリックしてください。



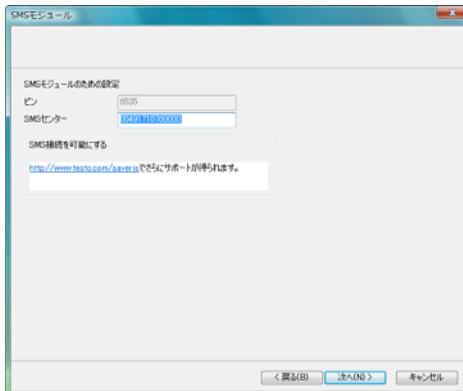
- Saveris Base の一般的なシステム設定が表示されます。

i 日付及び時刻は、PC の日付・時刻と自動的に同期されます。システム管理者は、計測データの信頼性を維持するために、日付・時刻を定期的にチェックして、必要に応じて調整してください。

3. **[計測単位]**をクリックして、システムで使用する温度の単位を選んでください(摂氏 °Cか華氏 °F)。
4. **[次へ(N)]**をクリックしてください。

- Saveris Base に GSM モジュールが付いている場合には、SMS サービスの基本設定を入力するためのダイアログが表示されます。(日本国内では、GSMモジュール内蔵の Saveris Base は使用できません。)

GSM モジュールが付いていない場合には続けてステップ 6 に進んでください。



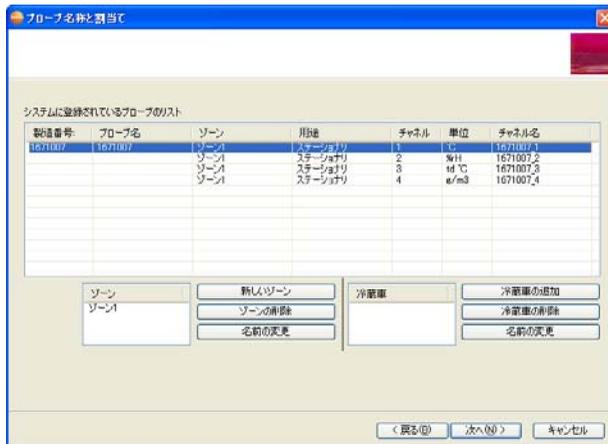
5. **PIN** 及び **SMS センター** の番号を同名のフィールドに入力してください。

PIN 及び SMS センターの番号は、SIM カードの同梱書類に載っています。

入力した PIN が間違っていると、Saveris base はシャットダウンし、異なる SIM カードでないと再スタートできません。使用できるのは、オリジナルな SIM カードだけです。

6. **[次へ(N)]** をクリックしてください。

- Saveris Base に登録されたプローブのリストが表示されます。

7. **[新しいゾーン]** をクリックします。

- ボタンをクリックして選択リストを表示し、そのプローブを割り当てるゾーンを選択します。
- 必要ならば、**TC タイプ** フィールドをクリックして、熱電対のタイプ (**T**、**K**、**J**、**T**、**S** 等) を入力します。
- 必要に応じて、**プローブ名** や **チャンネル名** フィールドに入っているデフォルト値を変更します。



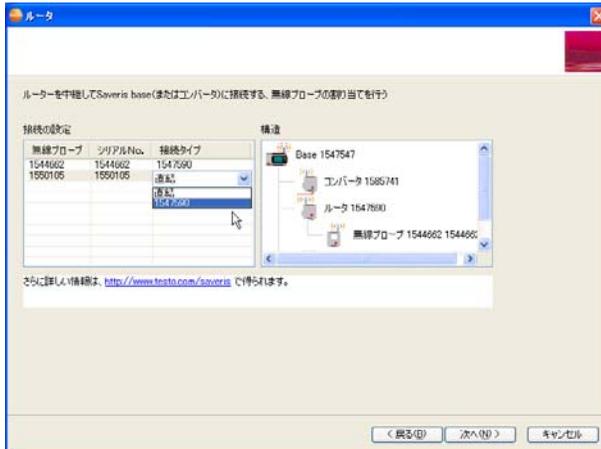
プローブを示すための **チャンネル名** フィールドには、予め既定の名称が割り当てられています。これらの名称は個別に変更することが可能です。チャンネル名は 15 文字以内で割り当ててください。

- > **チャンネル名** フィールドをクリックして、例えば "Room 4" といったプローブを特定できる名称を入力してください。

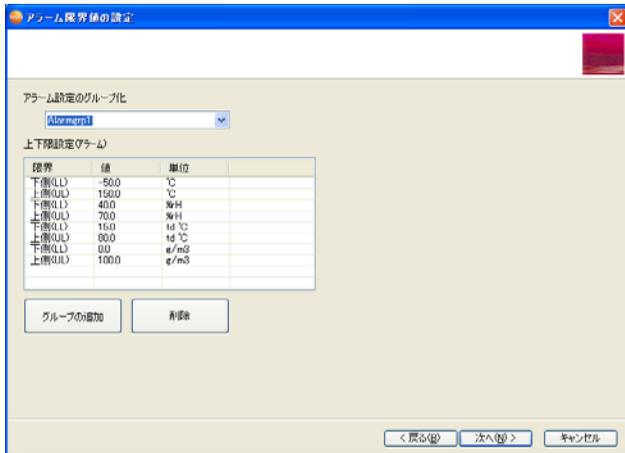
11. **[次へ(N)]** をクリックしてください。

- ルーターが Saveris Base に登録されていると、無線プローブの接続タイプの設定画面が表示されます。

ルーターが登録されていないときには、続けてステップ 15 に進んでください。



12. 割り当てようとしているプローブの**接続タイプ**セルをクリックしてください。
 - セルにドロップダウンリストのボタン  が表示されます。
13.  ボタンを押してドロップダウンリスト(選択リスト)を開き、プローブを割り当てるルーターを選択してください。
14. ルーターを中継して Saveris Base にデータを送信する全てのプローブに関して、ステップ 12 と 13 を行ってください。
15. **[次へ(N)>]**をクリックしてください。
 - **アラーム限界値の設定** のダイアログが表示されます。



16. 複数のアラーム限界値が必要な場合、個別のアラーム・グループを作成できます。グループ作成は、デフォルト設定値を上書きするか、**[グループの追加]**をクリックして、新規に作成します。



限界値とは、Saveris base がアラームを発するための基準となる値です。

下限値 及び **上限値** フィールドには既定の数値が入力されています。必要に応じてその値は変更することができます。

測定値が、下限値あるいは上限値を超えると Saveris Base はアラームを発します。

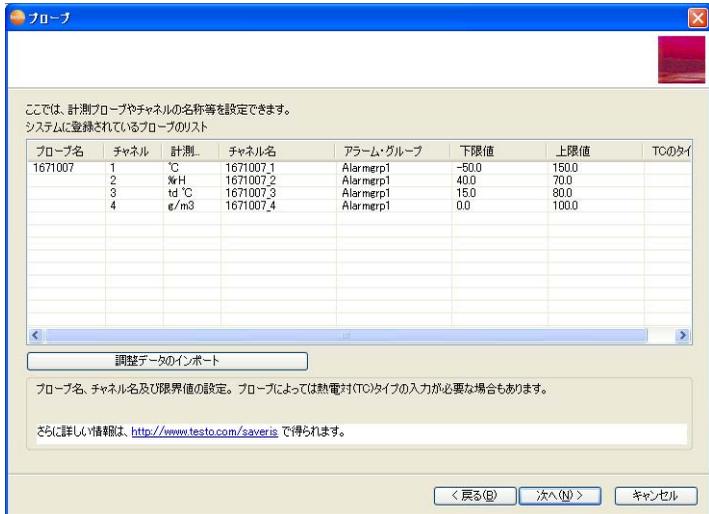
- > **下限値** フィールドをクリックして、下限値を変更してください。

全てのプローブ・チャンネルが同じ限界値を取るようにしたい場合には、コラムのタイトルをマウスで右クリックし、コンテキスト・メニューで **全てに適用** をクリックしてください。この操作は次のステップの上限値にも当てはまります。

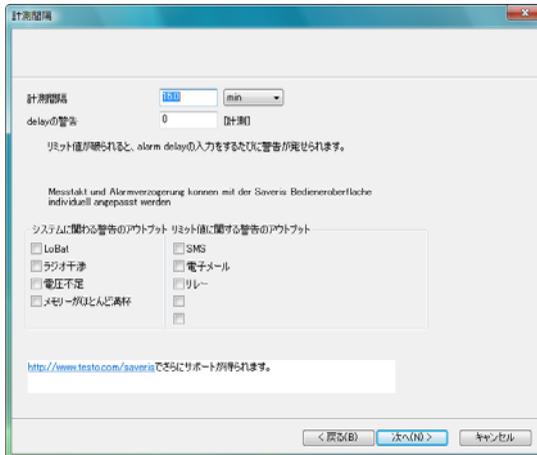
- > **上限値** フィールドをクリックして、上限値を変更してください。
- > 他の全ての新しいプローブに対しても、必要なフィールドが全て埋まるまで、ステップ 6 とそれに続く操作を行ってください。

17. **[次へ(N)]** をクリックしてください。

Saveris Base に新しく登録されたプローブのリストが表示されます。



18. ボタンをクリックして、選択リストを開き、そのチャンネルを割り当てるアラーム・グループを選択します。
19. 必要に応じて、**[調整データのインポート]** をクリックして、プローブ毎の調整データを個別に見ることができます。
 - > 必要に応じて、**TC タイプ** フィールドをクリックして、熱電対のタイプ(**T**、**K**、**J**、**T**、**S** 等)を入力します。
 - > ステップ 18 を実行して、他のプローブについても同様の処理を行います。
20. **[次へ(N)>]** をクリックします。
 - 計測間隔の設定、アラームの遅れ、アラーム発呼の設定ページが表示されます。



21. **[計測間隔]**を入力して、その時間単位を設定します。



計測間隔は、各プローブがどのくらいの間隔で測定値を取得し、保存するかを定めます。

時間単位に関して可能な設定:

- ・ **sec**(秒)
- ・ **min**(分)
- ・ **h**(時間)

無線プローブの最小計測間隔は 1 分です。

この設定は、測定開始後に、個々のプローブに関して別々にソフトウェアで変更することができます。

22. **[アラーム:遅れ]**を設定します。



例えば、ここに"5"を入力すると、限界値を 5 回超えるまでは Saveris base によってアラームが発動されなくなります。

この設定は、測定開始後に、個々のチャンネルに関して別々に、ソフトウェアで変更することができます。

23. どのような場合に**[システム関連のアラーム]**を発動するべきか決めてください。

24. アラームの出力方法のオプションを決めてください。



システム・アラームは計測システムの異常を示すために用いられます。システム・アラームに対して何等の処置も取らないと、間断のないデータ記録が保障されなくなります。

システム・アラームを **SMS** や **電子メール** で出るようにした場合、

時間的な遅れが生じることがあります。

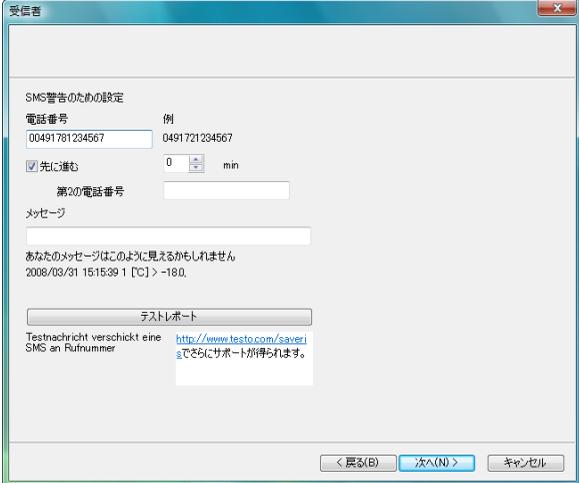
SMS による通知機能は、Saveris Base が GSM モジュールを備えている場合にのみ利用することができます。

設定は、後で、全てのプローブに関して、別々にソフトウェアで変更することができます。

25. **[次へ(N)]** をクリックしてください。

- Saveris base に GSM モジュールが付いている場合には、SMS アラームの設定が表示されます。

GSM モジュールが付いていない場合には、続けてステップ 30 に進んでください。



26. アラーム・メッセージの受信者の**[電話番号]**を入力してください。
国コード、ネットワークまたはエリアコード、そしてローカルナンバーを入力してください。
27. 受信者からの応答がないときに、別の受信者(第2受信者)にアラーム・メッセージを送信したい場合は、**先に進む** チェックボックスにチェックを入れてください。
- **min(分)** リストフィールドと**第2電話番号**の入力フィールドが表示されません。
28. 最初の受信者が応答しないときに、どれぐらいの時間がたってからアラーム・メッセージを別の受信者に送信すべきかを **min(分)** リストフィールドを用いて決めてください。

29. **第2電話番号** フィールドで、アラーム・メッセージを送信すべき電話番号を入力してください。

国コード、ネットワークまたはエリアコード、そしてローカルナンバーを入力してください。

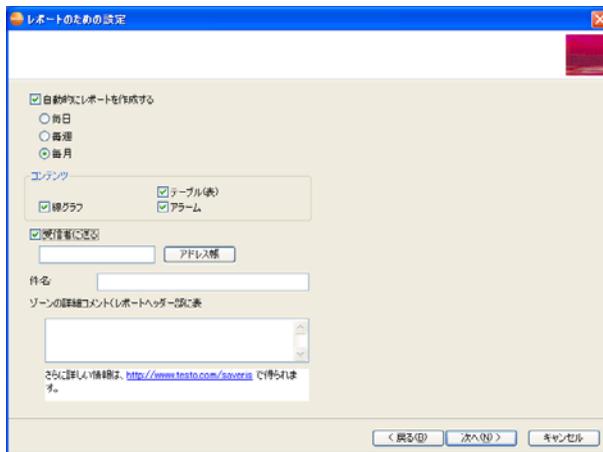
30. アラーム・メッセージに付けるテキストを、**メッセージ** フィールドに入力してください。

i 全ての設定が正しいことをチェックするために、**[テストレポート]** ボタンを用いてテスト用のアラームメッセージを送ることができます。

31. **[次へ(N)>]** をクリックしてください。

– レポートに関する設定が表示されます。

i これらの内容がレポートのデフォルト設定として適用されます。これらの設定は後からいつでもソフトウェアで変更することができ、また新しい設定のレポートを追加することができます。



32. この機能を使用しない場合には、**自動的にレポートを作成する** のチェックボックスのチェックを外して下さい。

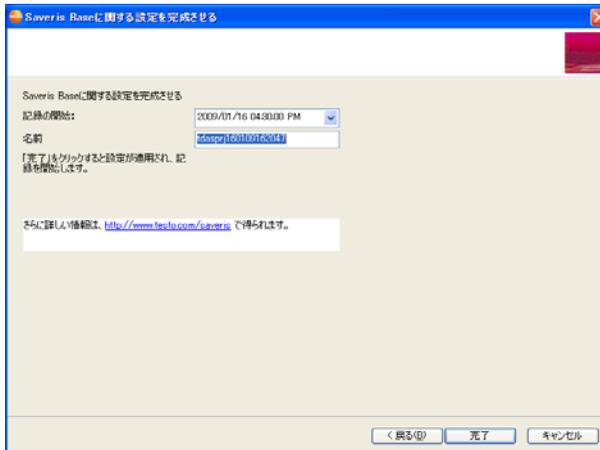
– この場合には、さらにステップ 36 に進んでください。

33. 自動的にレポートを作成する頻度を決めてください。

34. **コンテンツ** でレポートの内容を決めてください。

35. レポートを電子メールで送信したい場合には、**受信者に送る** のチェックボックスにチェックを入れてください。

- 電子メールアドレス及び件名を入力するフィールド、そして**[アドレス帳]**ボタンが表示されます。
- 36. 受信者の電子メールアドレスを入力フィールドに入力するか、**[アドレス帳]**を用いて Outlook のコンタクト先から受信者を選んでください。
- 37. **件名** フィールドに電子メールの件名となるテキストを入力してください。
- 38. **ゾーンの詳細コメント** に、レポートのヘッダー部に表示させるコメントを入力してください。
- 39. **[次へ(N)]**をクリックしてください。
- 計測の開始日時とプロジェクト名に関する情報が表示されます。



- 40. 必要に応じて、**記録の開始:**の日時を遅らせてください。
- 41. **名前** フィールドでプロジェクト名を変更してください。



プロジェクト名には、計測の内容を判別することができる明瞭な名前を考えてください。

プロジェクト名を後で変更することはできません。計測内容や日時を推測可能な、明瞭な名前を考えてください。

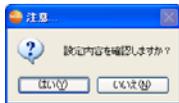
- 42. ハードウェアの設定作業を終了するために**[完了]**をクリックしてください。
- 設定完了のダイアログが表示されます。



43. 続いて、コンポーネントを同調させるために、全てのプローブ及びルーターのCONNECT ボタンを押してください。

44. **[OK]**を押してダイアログを閉じてください。

– 設定を表示して印刷するためのダイアログが表示されます。



45. いずれかのボタンをクリックしてください:

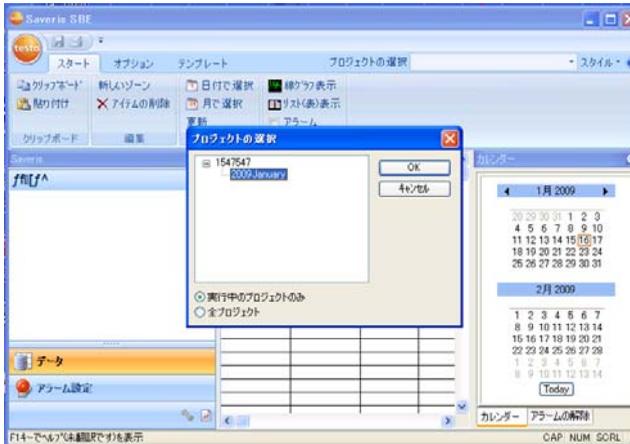
- ・ **[はい]**: 設定をインターネットブラウザで表示します。そこから印刷も可能です。
- ・ **[いいえ]**: 設定を表示せずに作業を終了します。

– これで測定の準備が整いました。

i 例えばハードウェアを壁に取り付ける方法などについては、別のCDに収められたPDFファイル形式の総合取扱説明書を参照してください。

2.7. Saveris ソフトウェアをスタートさせる

1. **[スタート] | プログラム | Testo | Saveris Professional Client** を選択してください。
- **Testo Saveris ソフトウェア** のプログラムウィンドウが **プロジェクトの選択** ダイアログと共に開きます。



2. プロジェクトの抽出オプションを選んでください：
 - ・ **実行中のプロジェクトのみ** : 現在、測定を実行中のプロジェクトだけをツリー表示します。
 - ・ **全プロジェクト** : 完了したのものも含んだ全プロジェクトをツリー表示します。
3. ツリーの中からデータを開くプロジェクトを選択してください。
4. **[OK]**で確定してください。
- **Testo Saveris ソフトウェア** のプログラムウィンドウの中に選択されたプロジェクトの測定データが表示されます。

i 最初の測定データが表示されるようになるには、数分～数十分の時間が必要です。(無線プローブのデータ発信間隔が 15 分であるため)



株式会社 テストー

■ 本社

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル7F

- セールス TEL.045-476-2288 FAX.045-476-2277
- サービスセンター(修理・校正) TEL.045-476-2266 FAX.045-476-2277

■ 大阪営業所

〒530-0055 大阪市北区野崎町7-8 梅田パークビル9F

TEL.06-6314-3180 FAX.06-6314-3187

ホームページ <http://www.testo.jp> e-mail info@testo.co.jp